

涌谷町



古式獅子舞

古式獅子舞は涌谷伊達家の初代巨理元宗が天文21年(1552)に京都の愛宕神社を分社した時、同時に受け伝えられたとされています。涌谷町の妙見宮に文久2年(1862)の獅子舞の絵馬が奉納されており、これが最古の記録となっています。



獅子舞は2頭の獅子が稚児にあやされながら、緩やかなはやしで舞います。内容は、「はやし笛」「ねむり」「起し」「あやし」「本舞」「はやし笛」の順番になります。「本舞」で稚児が獅子の肩に乗りながら獅子あやしをする様子は文殊菩薩をかたどったものであり、「文殊の知恵、よく百獣の王を鎮める」という意味を表したものとされ、古き時代の神仏混淆のなごりをとどめています。



宮城県内に少ない太神楽系として貴重であり、涌谷町指定無形民俗文化財に指定されています。

秋は妙見宮の「宵祭り」(9月1週目土曜日)に奉納し、春は涌谷神社の祭礼と合わせた桜まつりなどで演舞します。